

第43回2024トリミング競技大会

全国のトリマー268名が挑んだ「第43回2024トリミング競技大会」がロイヤルカナン・カップ2024、JKCサクラ・アニュアル・ショー2024の会場にて、2日間にわたり開催されました。



理事長賞受賞者には、特別協賛：ロイヤルカナン ジャパン合同会社、株式会社 PLUSH PUPPY JAPAN GROOMING PRODUCTS、有限会社ファースト インターナショナル アソシエイト、株式会社 アンドーより、副賞が贈られました。

「第43回2024トリミング競技大会」が4月5日(金)・4月6日(土)の2日間にわたって開催されました。

初日は全国のプロック予選を勝ち抜いてきた138名のトリマーによる「ブロックの部」、2日目は公認トリマー養成機関代表130名による「養成機関の部」の競技が行われました。

出場者には、自ら用意した2カ月以上カットをしていないモデル犬を2時間以内で仕上げる高度な技術力が要求されます。多くの観衆が見守る中、緊迫感に包まれつつ、皆、精一杯持てる力を発揮しました。

養成機関の部

理事長賞

ブロックの部



和田真依 (九州サンシャインドッググルーミングスクール)

総評 審査員長：高尾 諭

JKC創立75周年記念大会に出場され、健闘されたみなさんに賛辞を送りたいと思います。

各組共に限られた年数の中でそれぞれ素晴らしい技術を発揮され、甲乙つけがたいところでしたが、別所理事長と協議の結果、多くの作業が必要なA組の方に決定しました。

最後に全出場者を育てあげられた先生と応援した学校に感謝いたします。

和田さんのコメント

理事長賞を目標に日々精進してきたので、今回受賞することができて嬉しい気持ちでいっぱいです。ご指導して下さいました先生方、応援してくれた周りの方々、練習に付き合ってくれたモデル犬に心から感謝しています。

今回は、トップラインが綺麗に見えるように切ることや、セットアップの際にスウェルをくずさないように気をつけ、時間配分を考えて余裕をもって作業を進めることを意識しました。今回使用したモデル犬に関しては、健康管理やコートの管理はもちろん、トリミング中、無駄のない作業の進め方ができるようにしました。

今後は、その犬に合ったカットスタイルで、飼い主様に満足していただけるようなトリマーを目指して頑張っていきたいです。



木船康司 (神奈川ブロック)

総評 審査員長：水越治子

最優秀技術賞の方々は各々高いスキルを持ち、甲乙付け難い審査となりました。理事長賞にはSP犬種B組のウエスト・ハイランド・ホワイト・テリアを選出しました。モデル犬のコンディションはベースのストリッピングの正しい作業により大変質の良い堅いトップコートを保っていました。作業工程は大変丁寧で、犬に負担をかける事のないソフトなタッチでのコートワーク、各々の箇所に適したブラッキングでのナチュラルな仕上がりが高く評価しました。この犬種では本部競技大会始まって以来初の受賞となりました。今後、SP組でチャレンジされるグルーマーが増え、更なる技術の向上に繋がる事を望みます。

木船さんのコメント

今回は、正直な気持ち、理事長賞を狙っていましたが、B組での参加ということとウエスト・ハイランド・ホワイト・テリアが過去に理事長賞を受賞したことが無いことも、なかなか大きな壁だと思っていました。その中で今回の賞を頂き、嬉しさ半分、驚き半分といった気持ちです。

1番気をつけたことは、その犬が耐えられる、または負担にならない範囲でブラッキングを行ったことです。犬は物ではなく生き物であるため、スピードだけを求めて毛を抜かないように意識しました。重心の移動が完了していない段階で足を持ち上げないなど、トリミングの技術的なところと少しずれるかもしれませんが、下積み時代に最も厳しく指導頂いた大切なことを心掛けて挑みました。

普段の練習では、その犬が受け入れられるスピードで可能な限り綺麗に、なおかつ負担を最小限に、犬を肉体的にも精神的にも壊さないことを意識して練習しています。

今後はお客様はもちろん、他のトリマーがもしも自分以外の人に大切な犬を触らせるとしたら、「私に触って欲しい」、「私であれば安心してブラッキングや管理を任せられる」、そう言ってもらえる様なトリマーになりたいです。



優秀養成機関賞



ナンバペット美容学院



四国サンシャインドッググルーミングスクール



K-9 グルーミングスクール

養成機関の部

A組



| 短評 | 審査員・高尾 諭

養成機関組とは思えないくらい、シザーリング・スイニング・ブラッキングと各種トリム技法のモデル犬があり、JKCのスクールのレベルの高さを感じました。ほとんどの方が、おそらく2年間という短い期間でその犬種のショーカットを習得するというクラスのレベルの高さを感じました。(2回目の感動)

その中でも上位5名は時間ごとに順位が変動するくらい、抜きつ抜かれるの激戦でありましたが、難しいコートをうまくセットアップし、シルエット・ラストルックの良いかた(人)が、最初にゴールテープを切りました。

最優秀技術賞：和田真依(九州サンシャインドッググルーミングスクール)

優秀技術賞：白井斗太(ナンバペット美容学院)

今井千夏(ナンバペット美容学院)

技術賞：中村優太(九州サンシャインドッググルーミングスクール)

近藤花帆(愛犬美容看護専門学校)

石津桃香(スカイ総合ペット専門学校)

木崎雅美(SJDドッググルーミングスクール)

岩澤愛美(スカイ総合ペット専門学校)

B-1組



| 短評 | 審査員・柯 意琛

このクラスはB組と言う事もあり、シザーの扱いが全体的に良好でした。

最優秀技術賞の方は、パジャマタッチでのチャレンジでバンドの位置も正確でした。面も美しく、シンメトリーもとれていました。

今後の課題としては、もう少しコーミングが丁寧になればさらにグレードアップ出来ると感じました。

最優秀技術賞：山下はるな(四国サンシャインドッググルーミングスクール)

優秀技術賞：岸田莉来(K-9グルーミングスクール)

大前真緒(ロイヤルグルーミング学院)

技術賞：羽石雛乃(愛犬美容看護専門学校)

塩澤菜月(つくば国際ペット専門学校)

小川璃音(スカイ総合ペット専門学校)

川村紗弓(ロイヤルグルーミング学院)

高村美瑠(スカイ総合ペット専門学校)

岩渕 蘭(アートグルーミングスクール)

B-2組



| 短評 | 審査員・幸田洋子

このクラスは22名のエントリーでした。養成機関の生徒という事もあり、基本的な道具の使い方、また、モデル犬に対して負担なく作業が出来ているかを確認しながら審査しました。ラストルックがバランスよく綺麗に仕上がっている方々を入賞とさせて頂きました。

出場者皆さんにおかれましても、今後更に技術を磨き、飛躍されることを期待いたします。

最優秀技術賞：渡辺穂乃香(SJDドッググルーミングスクール)

優秀技術賞：下田さくら(ナンバペット美容学院)

大島 楓(つくば国際ペット専門学校)

技術賞：駒井郁哉(静岡グルーミングスクール)

児玉 花(大分ドッググルーミング専門学校)

松山大樹(九州サンシャインドッググルーミングスクール)

石川美月(東京愛犬専門学校)

湯田 梓(千葉グルーミングスクール)

山田千夏(アートグルーミングスクール)

養成機関の部

C-1組



短評 | 審査員・小林敏夫

18名の参加者の審査をさせて戴きました。1年未満の技術の評価は大変むずかしいですが、更に基礎をしっかりと学習し、応用につなげて行く事を望みます。

最優秀技術賞受賞者の方には、見るべきもの、見せてくれるもの、その表現、手順、早さ、どれを取っても魅力的でありました。

最優秀技術賞：宮下未羽（ナンバペット美容学院）

優秀技術賞：儀間康恵（スカイ総合ペット専門学校）
渡邊英梨（四国サンシャインドッググルーミングスクール）

技術賞：大庭優季（愛犬美容看護専門学校）
松井果林（静岡グルーミングスクール）
今田礼音（ロイヤルグルーミング学院）
松永七海（アートグルーミングスクール）
山口実穂（スカイ総合ペット専門学校）

C-2組



短評 | 審査員・田中聖子

このクラスの方達は実力が均衡しておりました。技術的には道具の使い方、犬の扱い方も良く好感が持てました。

入賞された方はスタイリングが基本に忠実でモデル犬の良さを充分に出せていました。

今後更に技術を磨き上を目指していただきたいです。

最優秀技術賞：長尾杏実（K-9グルーミングスクール）

優秀技術賞：角田稀咲（つくば国際ペット専門学校）
清水びの（スカイ総合ペット専門学校）

技術賞：須永芽生（SJDドッググルーミングスクール）
安久井佐知子（アートグルーミングスクール）
圖子真璃愛（ロイヤルグルーミング学院）
大友愛希（つくば国際ペット専門学校）
蒔田歩笑（ナンバペット美容学院）

E組



短評 | 審査員・飯田美雪

このクラスの出場者の方は、基礎技術のシザーリング、クリッパーワークなど良く習得されていました。また、モデル犬の接し方もとても良いと思いました。

最優秀技術賞の方はバランスが良く、作業時間も早く、綺麗にコンパクトな仕上がりでした。



最優秀技術賞：志水琴菜（宮崎ペットワールド専門学校）

優秀技術賞：田中紅葉（宮崎ペットワールド専門学校）
土井海音（広島アニマルケア専門学校）

技術賞：上本真嘉（国際ペット専門学校 金沢）
柳川翠音（専門学校福岡ビジュナリーアーツ）
八汐倫樺（福岡ECO動物海洋専門学校）
小笠原 遥（国際ペット総合専門学校）
明石そら（専門学校ちば愛犬動物フラワー学園）
忽那知香（河原アイペットワールド専門学校）
平田涼乃（専門学校ちば愛犬動物フラワー学園）
東塚日菜（国際ペット専門学校 福井）
永保実佳（日本ペット＆アニマル専門学校）

ブロックの部 (A組～D組)

A組



短評 | 審査員・水越治子

出場された方々の技術レベルは大差がなくハイレベルな内容でした。最優秀技術賞の方はシザーワークのレベルが高く、的確な作業をされアウトラインは美しくシンメトリーも正確に仕上げておりました。またモデル犬のタイプを見極め、スタンダードに近づける創意工夫をしてスタイリングできているかという点を重要視し決定いたしました。

今後の課題としてはプードルでチャレンジされる場合、スウェルの作り方で顔貌表現が変わりますので、頭部表現の完成度を高める事、他犬種も同様に頭部の作りと全体のバランスを考慮されると更にブラッシュアップすると思います。



最優秀技術賞：長谷 歩 (大阪ブロック)
優秀技術賞：大崎恵美 (神奈川ブロック)
柏木真美 (中部ブロック)
技術賞：伊牟田愛夢 (大阪ブロック)
高木麻衣 (中国ブロック)
野間美咲 (四国ブロック)
齊藤朱鯉 (北海道ブロック)
上河志穂 (中国ブロック)
松園朋美 (千葉ブロック)
坂巻朱梨 (千葉ブロック)
成見舞冬 (近畿ブロック)
石樽麻紀 (中部ブロック)

B組



短評 | 審査員・柯 意琛

最優秀技術賞の方は、ビフォーアフターも明確で粗切りからチッピングへと進行していました。全体のバランスも良好でした。改善点としてはもう少し犬種標準の理解を深めればさらに技術の向上につながるでしょう。

最優秀技術賞：大原田萌美 (中国ブロック)
優秀技術賞：湯浅翔平 (千葉ブロック)
山田琳音 (東北ブロック)
技術賞：松下優風 (四国ブロック)
後藤大樹 (埼玉ブロック)
中村健太 (東北ブロック)
水品千晶 (東京ブロック)
清野和弥 (東北ブロック)
川添惇司 (九州ブロック)
長尾瑞恵 (大阪ブロック)

C組



短評 | 審査員・古川利恵

各ブロックの代表だけあり皆様基本技術は身に付いていました。その中で全体のバランス、シザー技術の優れた方を入賞と致しました。最優秀技術賞の方は作業が早く工程も好印象でした。今後はよりバランス重視で技術向上される事を期待致します。

最優秀技術賞：川路梨緒 (九州ブロック)
優秀技術賞：黒田侑加 (東京ブロック)
石井 遥 (千葉ブロック)
技術賞：石飛里奈 (中国ブロック)
野村奈保子 (中部ブロック)
原田かさね (九州ブロック)
木間塚 葵 (北関東ブロック)
岩井瑠希 (北関東ブロック)
石田結華 (中国ブロック)
川島千夏 (千葉ブロック)
田中陽菜 (北関東ブロック)

D組



短評 | 審査員・岡田隆三郎

D組で出場のみなさんは慣れない会場の中トリミングが進んでいきました。その中でも被毛を逃がさないシザーリングの方がスピード感もあり完成度も高く上位に入賞したと思います。ただコームのピンが歪んでいるものを平気で使用している競技者がいらっしゃいました。正しい立毛をしてカットするためにはコームにも気を

使うべきだと思います。

またモデル犬に対して作業する立ち位置、目線の高低を意識すれば完成度も変わってくると感じました。入賞できなかった方、改善点をしっかりと見つけて次回の競技会にも出場して下さい！

ブロックの部（スイニング・プランキング犬種A組～D組）

スイニング・プランキング犬種 A組



最優秀技術賞：相馬牧子（北海道ブロック）
優秀技術賞：神宮有里子（北関東ブロック）
相馬一輝（北海道ブロック）
技術賞：高橋邦明（埼玉ブロック）
森下恵里菜（近畿ブロック）

短評 | 審査員・露木 浩

10名の競技者のエントリーがあり、作業前のそれぞれの犬種の状態は、他のクラスより良い状態でスタートしました。ほとんどの競技者のクリッパーワークは、的確で短時間で終えメインコートのコートワークに移り時間配分も的確でしたが、まだ課題が残る競技者も見受けました。

時間内にビフォーアフターの仕上がりを重要な基準にして審査しました。最優秀技術賞と優秀技術賞は僅差でしたが作業量の多いアメリカン・コッカー・スパニエルを最優秀技術賞にいたしました。

スイニング・プランキング犬種 B組



最優秀技術賞：木船康司（神奈川ブロック）
優秀技術賞：有村 健（東京ブロック）
技術賞：原田ちはる（千葉ブロック）
宗定歩美（中国ブロック）

短評 | 審査員・露木 浩

7名の競技者のエントリーで内訳は、ミニチュア・シュナウザー 4頭、アメリカン・コッカー・スパニエル1頭、イングリッシュ・スプリング・スパニエル1頭、ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア1頭、計7頭で犬種バラエティが4犬種ありました。作業前の状態では、競技会に合わせ準備していたことが、とても分かりやすく犬種によってはコートワークがとても安易に整えられることが見てわかりました。

各クラスのモデル犬のビフォーアフターを審査基準にいたしました。その中でもウエスト・ハイランド・ホワイト・テリアの作業工程は基礎にのっとり時間内に良い仕上げをした競技者を最優秀技術賞に選びました。

スイニング・プランキング犬種 C組



優秀技術賞：岸本 結（中国ブロック）
技術賞：大谷真奈美（近畿ブロック）

短評 | 審査員・露木 浩

4名の競技者のエントリーは、アメリカン・コッカー・スパニエル、イングリッシュ・スプリング・スパニエル、ミニチュア・シュナウザーの3犬種でした。作業前の印象は、アメリカン・コッカー・スパニエルは、十分なコートの長さがありました。ビフォーアフターの仕上がりで入賞者を選びました。

競技会に向けての準備で、競技会当日に合わせることは、理解できますが、あまりコートが伸び切らない状態でのエントリーは加点しにくく感じました。スパニエルにおけるクリッパーワークについては、頭部の表情が犬種標準に沿っているかを再確認すると良くなると感じました。

スイニング・プランキング犬種 D組



技術賞：薄井貞裕（大阪ブロック）

短評 | 審査員・露木 浩

2名2犬種のエントリーで、スコティッシュ・テリア、ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリアの競技でした。

作業工程の再確認が必須だと感じ、まだまだ伸びしろがあると感じました。仕上がりの輪郭線の確認と犬種標準の再確認が、今後の課題と思われま